

山口大学農学部・獣医学部同窓会(青山会)東京支部

山口大学獣医学科 創立80周年記念事業のお知らせ

<創立80 周年記念式典・祝賀会の概要>

記念式典・祝賀会への参加受付を開始しました。

右のURLより参加登録をお願いします。(締切り:10月4日 参加費:8,000円)

獣医学科/共同獣医学部以外の方も、どなたでもご参加いただけます。



記念式典・祝賀会の事前登録
<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/vet/80th/>

開催日: 令和6年10月26日(土)

会 場: かめ福オンプレイス (山口市湯田温泉4-5-2)

1) 記念式典

開 式: 14 時30 分~16 時45 分(受付開始:13 時30 分)

開催場所: 3階・長州の間

記念講演: 山際 大志郎氏(衆議院議員)

林 良博氏(東京大学名誉教授)

山手 丈至氏(大阪府立大学[大阪公立大学]名誉教授)

添田 晋吾氏(日米公認獣医師・The Humane Society of New York)

2) 記念祝賀会

開 式: 17 時~19 時(受付開始:16 時)

開催場所: 2階・ロイヤルホール

3) 創立80 周年記念募金事業 令和5年9月から令和7年3月末 ※事業詳細は下記URL をご覧ください。



山口大学共同獣医学部80周年記念事業特設ページ
<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/vet/80th/index.html>



80周年記念募金事業
<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/vet/80th/contribution.html>

母校だより

共同獣医学部長 度会雅久

One Welfare教育研究センターの紹介

ワンヘルス(One Health)という概念が定着し、人間と動物の健康は連動していることが広く知られています。近年、このワンヘルスという考え方がさらに進化を遂げ、ワンウェルフェア(One Welfare)という考え方が提唱され始めています。健康だけではなく生活の質や心身のウェルビーイング(幸福感)は人と動物ともに大切なことであり、それ自体も連動しているという概念です。健康は一つと同時に福祉も一つであると考えられます。

本学部ではワンヘルス研究を推進するため、医学と獣医学が連携し人獣共通感染症および食品・環境由来感染症の研究を行ってきました。これらをさらに発展させるため、ワンウェルフェアの概念を取り入れ、地域社会と連携しホース・アシステッドセラピー等の動物介在活動、法獣医学に関する研究部門を設置し、新たな手法・視点によるワンウェルフェア研究を全国に先駆けて推進します。

<ホームページ> <https://www.yamaguchi-u.ac.jp/vet/laboratory/OneWelfare/index.html>

* 本センターは令和5年度に設置され、令和6年度概算要求(教育研究組織改革分)に「ワンウェルフェア(One Welfare)研究拠点の形成」として採択されています。



左から、清水准教授(センター長補佐)、牛根助教、度会センター長、渡邊准教授

緒方 有 （昭和35年卒業(V8)）

～ 家畜衛生一筋の道 ～

昭和7年6月、福岡県京都郡の隠国(こもりく)と呼ばれている山村に生まれた。山野を駆け、川に遊び、野生児のように育った。

国民学校(小学校)初等科を終え、昭和20年4月、福岡県立豊津中学校(現育徳館)に入学。戦時中であり授業より軍事教練が主であった。8月15日終戦、敗戦のショックと混乱、食糧不足と貧困、筆舌に尽し難い惨状であった。

その後、学制改革で6・3・3制となり、同じ学校に6年間通学する事になった。昭和26年3月高校を卒業。医学部を目指していたが、8人兄弟の3番目、家庭の経済事情もあって断念。止む無く地元の役場の職員となった。しかし、冷や飯食らいの次男坊、居心地の悪さと村を出たいとの思いから3年で退職。たまたま、小倉市城野の牧場に併設された、農村科学研究所・付属酪農講習所が開設されたので入所。近在の県から8名が入所してきた。しかし、公立の認可が得られず2年で閉所となった。これが畜産に係わる発端である。

昭和31年4月、山口大学農学部獣医学科に入学。現役で入ってきた同期より5歳年上のおじんであった。当時の農学部は下関市長府町に在ったが、教養課程は山口市の校舎で学んだ。履修科目も多く、特に語学は2か国語が必修で時間数も多かった。医系は独語という観念から第Ⅰを独語、第Ⅱを英語とした。思いの外難物であった独語は、その後ほとんど役に立たなかった。昭和32年4月、下関へ移動した。

専門課程の研究室の選択は、臨床獣医師になる選択肢はなかったので、畜産研究室(小田良助先生)に入った。専門課程になってからは、酪農講習所で学んだ下地があったので少し楽になった。その頃から農学部の山口市への移転についての動きがあり、農学部長交渉、山口の本部への陳情等を行ったが進展しなかった。その後、山口市吉田に移転が完了した。小生も、山大担当で開催された、日本獣医学会に出席した折に見学させていただいた。長府の校舎とは雲泥の差であった。本当に立派なキャンパスになって、御同慶の至りである。

昭和35年4月、佐賀県庁に入庁し、東松浦家畜保健衛生所(家保)に配属された。業務は豚コレラ(豚熱)の予防注射、乳用牛の結核・ブルセラ病検査、馬の伝貧検査等々、新米獣医師として奮闘した。思い掛けず翌年の1月、本庁畜産課衛生係へ異動となり、家畜衛生行政の仕事をした。

その後、家保も再編整備され広域家保となった。病性鑑定部門が新設され、研修を経て細菌部門を担当した。県内に発生したニューカッスル病は強く印象に残っている。診断はできても具体的な予防対策がなく、殺処分をするだけで虚しい思いをした。本病は瞬間に日本全国にまん延した。

佐賀県庁に8年間在職したが、縁あって栃木県に移り、家畜衛生研究所に勤務、細菌部門から新設されたウイルス部門担当となった。当時は、豚コレラ、ニューカッスル病、牛伝染性鼻気管炎(IBR)、子牛の下痢症、いわゆる牛の放牧病等の検査・診断に忙殺された。その後、本庁畜産課衛生係長、家保の所長などを歴任し、平成5年3月に定年退職した。

県庁を退職後、日本全薬工業株式会社の中央研究所に入所し、製薬の販売促進に係る検査部門と、新薬開発に伴う優良研究所(GLP)の信頼性保証部門の責任者を務めた。官公庁と違って、民間企業の厳しさ、事を成すに当たっての一体感は良い勉強になった。平成10年3月をもって退社したが、今もって親交を頂いている。有難いことである。

国際協力関係についても触れておきたい。農水省受入の海外研修員(フィリピン、インドネシア、タイ国)を受諾し研修を行った。また、国際協力機構(JICA)の家畜衛生の専門家として、昭和53年12月から1年間、インドネシア家畜衛生改善計画プロジェクト(南スマトラ・ランブン)に参画した。また、平成11年2月から4月まで、短期専門家としてメキシコに派遣され、家畜衛生事情調査とプロジェクト設定場所の選定のため、5州を駆け回った。その後正式にプロジェクトが設定され、5年間の事業が完了した。これらも貴重な経験となった。

メキシコから帰国した後、栃木県の要請により、県家畜畜産物衛生指導協会の事務局長に就任、県の畜産関係団体の再編整備に携わり、衛指協も、公益社団法人・栃木県畜産協会に編入され業務を行っている。

平成13年3月同協会を退職し、自由人となれた。ふと気付くと70歳近くになっていた。

振り返って見ると、色々と紆余曲折はあったが、総じて家畜衛生の道を歩いて来たと思う。

幸い健康に恵まれ、日頃は読書、俳句、短歌に親しみのんびりと過ごしている。

因みに座右の銘は「至誠天に通ず」と「人間到る処青山あり」です。

末尾ながら、会の益々の発展と会員皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



事務局幹事交代のお知らせ＆ご挨拶

このたび、当同窓会東京支部事務局幹事が入れ替わりましたので、ご報告申し上げます。久保田様、今まで本当にありがとうございました。安斉様、これから事務局幹事としてどうぞ宜しくお願いいたします。お二方からご挨拶をいただきました。

久保田 徹（昭和47年卒業(C2)）（退任）

山口大学農学部東京支部同窓会の皆様

2014年6月に高砂香料工業(株)を退社しましたが、ちょうどその頃から同窓会のお手伝いをしてきました。東京支部の同窓会の出席者は、卒業当時の農学部獣医学科卒の方々がほとんどで、農学科や農芸化学科卒の方はほとんどいませんでした。農芸化学科卒の小職としては、少しでも同窓会参加者を増やしていこうと、卒業した仲間に声を掛けてきましたが、ほとんど集まりませんでした。これは、ただ私の力不足であったと反省しています。

私個人としてはサラリーマンを卒業した後に、個人事業として食品衛生の講演会の講師、食品会社へのコンサルタントや指導などをしてきました。概ね順調に生活してきましたが、約6年前にガンが見つかり胃の全摘手術を受け、不覚にも1ヶ月の入院生活とその後のリハビリを余儀なくせざるを得なくなりました。飲食と行動の自由が利かなくなり、健康の有り難さを反省しながら思い出しました。手術後約6年を経過して、ガンの再発はいまのところありませんが、免疫力と体力および気力が衰えてきており、以前の体調には戻りません。

個人事業や地元の稲城市でのボランティア活動を細々と続けておりますが、同窓会のお手伝いは、ほとんどできておりません。このまま、いまの状態と同窓会の幹事を続けていくのも皆様のご負担を増やすことになりますので、退任したいと考えた次第です。現在は、自身のこれまでの仕事を振り返り、食品衛生に関するこれまでの経験や出来事を交えながら一冊の本をまとめてみよう、その原稿を執筆しているところでございます。

桑野現会長、深町元会長および吉田様、平川様にはいろいろと大変お世話になりました。長い間、本当にありがとうございました。



安斉 了（昭和54年卒業(V27)）（就任）

この度、東京支部の幹事を拝命しました安斉です、どうぞよろしくお願いします。私は昭和54年に当時の農学部獣医学科を卒業し、その後2年間の修士課程を経て日本中央競馬会(JRA、当時はNCK)に就職しました。現在はその関連団体である競走馬理化学研究所に在籍していますが、今年度を最後に自由人となる予定です。

私が最初に東京支部同窓会に参加できたのは卒業して少し経ってからでした。山大を退官されて日大で教鞭をとっておられた恩師の小原甚三先生にお会いしたかったのですが、週末は競馬の仕事で休めないことが多くなかなか叶いませんでした。ようやく参加した同窓会の記憶は、先輩方の挨拶がとても長かったことと、山城先輩の卓上に山のように並べられたお銚子でしょうか。

その後も、都合がついた時に参加するだけの至って不真面目な会員でしたが、昨年久しぶりに出席したところ、深町会長から今回の依頼がありました。突然のことで少し考えさせていただきましたが、生理学研究室の先輩で敬愛する桑野さんが会長になられたことや、吉田さんと平川さんが幹事として熱心に活動されているのを知って、お引き受けすることにしました。

同窓会の運営は無償のボランティア活動ですが、多くの皆さんが参加して喜んでもらえることが、そのモチベーションになっていると思います。これまでこの同窓会を引っ張っていただいた深町さんや久保田さんに心より感謝するとともに、これから会長や他の幹事の方と一緒に同窓会の運営に務めたいと思っていますので、関東在住の同窓生の皆さんにおかれましては是非とも私達と一緒にこの同窓会を支えていただければ、改めてお願いします。



令和6年11月30日 東京支部同窓会開催のお知らせ

- 日 時：令和6年11月30日(土) 14:00～18:00(予定)
(総会・講演会：14:00～16:00、懇親会：16:00～18:00)

- 場 所：ホテルグランドヒル市ヶ谷(予定)
- 会 費：12,000円(予定)



※ 詳細・参加申し込み方法は改めてお知らせします

- 講演者：福田昌治先生（埼玉県農業技術研究センター 酪農・養豚・養鶏担当 室長）
- 演 題：「家畜衛生・畜産振興に取組んだ30年 ～成牛下痢症と地鶏の研究を中心に」

2024年3月末、32年間の製薬メーカーを退職し、5月から産総研の契約職員です。

組換え蛋白質生産の研究、リウマチ薬・抗がん剤の臨床開発、市販薬副作用調査、事業開発、創薬のための産官学推進（大学やスタートアップとの共同研究）、一般薬部門での新製品開発企画と、営業以外の製薬に関する様々な仕事を経験しました。

昨年7月に、所属部署閉鎖で人員削減が決まり、11月に対象者である旨聞かされ就活を始めました。Bizリーチなどの就職斡旋会社へ登録し、製薬、食品などの健康関連会社（約30社）へ履歴書と業務経歴書を送りました。すぐに受かると高を括っていましたが、2次審査に進めたのがわずか2社、その2社も面談へ進めませんでした。知り合いのコンサルを通じて、製薬の開発、安全性調査、学術部門へも応募したのですが、難しいとのことでした。原因は、特段の資格（医師、薬剤師など）、肩書（部長など）のない現場管理職で、求める業務経験はあるが昔の経験であること、さらに年齢だとわかりました。

12月になり、本当にやりたいこと、やれることは何かを改めて考え、これからの日本人の健康、生活を豊かにすることに貢献したいと思い当たり、厚労、経産、農水省の政策立案に携わる社会人枠に応募。が、年齢のため不合格。ならば、健康、生活を豊かにする日本の研究・技術を世に出すための手伝いをと、某大学、JST、産総研での産官連携部門へ応募、1回の面談で合格。仕事内容と給与がほぼ同じだったので、通勤の楽さで、産総研に決めました。これまでは片道2時間、今は自転車で10分。大きな公園の木々を通り抜ける心落ち着く通勤です。

この期間に、もう一つ考えたことは、次の仕事を辞めたあと何をするかでした。実家の畑を活用するための農業技術学校、鍼灸マッサージの学校を考えましたが、これらには2年を要するので断念、短期の技術資格取得を考え、普通2種免許（タクシー）を選び自動車学校に通い取得。久しぶりに、合格発表のドキドキ感を味わいました。いつかつくばのタクシーでお会いすることがあるかもしれませんね。

転職にあたり、57歳の私自身、必要だと分かったことは・・・
 # やりたいことと自信をもってやれることを明確にすること
 # 通勤を含む労働環境
 # 希望収入



← 産総研構内の写真

バトンコーナー

振れ幅の広い生き方をモットーに（何でも経験してみよう！）

齊藤 章（平成11年卒業（B5））

2004年博士修了の齊藤 章と申します。中嶋さんより、今月号のバトンをお受けしましたので、たわいない話ですが、お付き合いください。

かつて、2004年から14ヶ月間カリフォルニアの旅へ行って参りました。目的は、UCSD (University of California, San Diego) での博士研究員（糖鎖修飾酵素遺伝子を欠損させたマウスを用いた病因論の探究）のためでした。決して、サーフィンが目的ではありませんので悪しからず。当時、新庄剛選手が、メジャーリーグへ移籍する際に、「僕はアメリカ人になる！」と豪語されていた言葉に感化され、「僕も！」と思いましたが、一部それも影響しまして。米国の最先端研究を体験することで、研究者として箔をつけたいと思い、UCSDでの門徒を叩いた次第です。

まず、Language barrierも去ることながら、Culture Shockの連続で、米国の実験台は胸元まであり高い！なので、椅子も高く、足が床まで届かなかったことにショックを覚えました。また、ファーストフード店で購入するコーラのカップも日本人スケールを越えたサイズで、巨人が生活しているのかと思わせるような環境で、研究以外でも多くの衝撃を受けました。思えば、山口大学時代は、実験器材はほとんどがガラス製を使用し、マメに洗浄しながら大切に扱うことが常でしたが、UCSDでは、全てがすでにディスポ（使い捨て）がスタンダードで、使い捨てる器材達に罪悪感を覚えながらも、必死に実験をしていたことを思い出します。一方で、UCSDのすぐ側には、エメラルドに輝くビーチが広がっており、余暇はサーフィンのできる最高の環境でした（結局サーフィンもしました）。

色々ありましたが、お陰様で現在は、これまでに培えたスキルを活かし、製薬企業で勤務しながら、サーフィン全日本選手権の茨城南支部の代表として、日々修練を重ねる日々を過ごしております。今後とも応援の程よろしくお願いいたします。



※2014年宮崎木崎浜で開催された全日本サーフィン選手権と茨城県霞ヶ浦で仲間と始めたボートサーフィンの様子（ボートの引き波で、湖でも波を起こすことができる）

メール配信にご協力をお願いいたします！

皆様のメールアドレスを事務局まで。

BCC配信ですのでアドレスは公開されません。

また、同窓会ホームページからもご登録できます。

<https://yamaguchiagrivet.wixsite.com/tokyo>

会 長 桑野 昭 (V21,S48卒) : kuwa5ayt@green.ocn.ne.jp
 幹事 安齊 了 (V27,S54卒) : to_ru.anzai49@docomo.ne.jp
 幹事 吉田 恵子 (V48,H14卒) : keicho@mth.biglobe.ne.jp
 幹事 平川 由佳 (V53,H19卒) : yspiyojiyo@yahoo.co.jp

事務局幹事を募集中です！

少しでもお手伝いできる方大歓迎です。

編集後記

皆さまいかがお過ごしでしょうか。今年は暑さが厳しいですね！エアコンもそろそろバテそうです。水分と電解質をよく摂り、くれぐれも熱中症にご注意ください。（事務局 平川）